

しなやかに、ひたむきに、したたかに。女性起業家を応援する新聞マガジン

わんからっとエル

# ONE CARAT エル



編集・発行 / 小泉プロダクション内「わんからっと」編集部 代表 小泉 知加子  
〒980-0012 仙台市青葉区錦町1-12-1-803 TEL.022-262-7915 FAX.022-262-7918  
e-mail onecarat@orchid.plala.or.jp

冬に向けて号

2011

VOL.63

平成23年11月20日発行

## わんからっとL 15周年記念パーティー 特集号

おかげ様で、今年わんからっとしは15周年を迎えることができました。  
10月7日、仙台市青葉区のパレスへいあんにおいて行われた「わんからっとし15周年記念パーティー」には、わんからっとし会員様はじめ約100名の方々がご参加くださいました。



ありがとうございます  
15周年!

編集長からのメッセージ

### 15周年を迎えて

パーティー開式挨拶より

本日は、お忙しい中、わんからっとし15周年記念パーティーにお越し下さいまして、誠にありがとうございます。すっかり恒例となりましたわんからっとし主催の異業種交流パーティー、今年も3ヶ月連続でしたが、開催することができてうれしさと喜びを感じています。  
東日本大震災による大津波で浸水した宮城県内の水田に、黄金色の稲穂が育りました。村井知事は、県内全域で安全性が確認されたとして、宮城県のお米の安全宣言をし、販売促進に全力を挙げる考えを示しました。  
3月11日の東日本大震災による大津波で、浸水した水田が元に戻るのに3年あるいは5年かかる。おそらく今年のお米は無理だろうという予想でしたが、土壌の塩分濃度を下げよと水で流す作業を何度も繰り返し、4ヶ月間稲の生育を見守りながら、さらには放射能セシウムも検出されず、稲穂りの最盛期を迎えています。

黄金色の稲穂のように、努力が実る世の中になっていくことが、本当の社会であってほしいと願っています。  
今年、わんからっとしを創刊して15周年という節目の年でもあります。どうですか。この気合いの入れよう。実は、大変親しくさせていただいている大先輩の女性経営者からの「プレゼント」なんです。せむわんからっとし15周年パーティーに着てほしいと「着物は一式をいただきましたので、今日は躊躇って臨みました。今日の15周年パーティーの会場にも来てくださっています。  
さて、私がわんからっとしを15年前に創刊した時には、今日のようには15周年を迎えることができるとは思いませんでした。継続して「イベント」のほうは、創刊始めのころよりも、もっとも努力と情熱がなくてはならないことを身をもって感じています。今年のように、誰も予期せぬ東日本大震災もそうですが、どんな困難なことがあっても、一度始まったことは、続けていかなければと強くそして熱く思わなければ次が見えてはこないのです。

このわんからっとしの情報誌は、全国でもまれに見る会員制の女性起業家を応援する新聞マガジンとして編集しています。  
会員の中には、津波で大きな被害を受けて、住むところもなくなってしまった方たちもいます。しかし、一人として退会する方がいませんでした。「元気になるから」地元の方たちの情報を知らなければ「知って」いる人がたくさんいるから「届く」のが楽しかったから「わんからっとし」がとにかく好きだからという声を聞かせても、いいわんからっとしの方々が元気な勇気をいただいているように思いました。できるだけ読者全員が「わんからっとし」の情報を発信していただくわんからっとしの媒体を活かしていただければと思います。

この交流会が、皆様のお役に立ち、かたや仙台・宮城県の経済の多少の発展につながるきっかけ、この上なくやがていを感じます。  
わんからっとしの会員同志の皆様、宮城県の景気を活性化していきますように。  
なお、本日のパーティーでは、パレスへいあん様のご協力の下、華やかな雰囲気を作らせて下さり、改めて御礼申し上げます。  
お帰りの際には、わんからっとし特製の「ハッピーバッグ」をお土産にお持ち下さいませ。わんからっとし会員の企業様からいただく協賛品が入っております。また、企業案内やパンフレット、チラシ、わんからっとし会員特典の季節限定の割引券などもあります。ご自宅に帰られた後は、じっくりと見ていただきたく思います。食べ物や飲み物の協賛品もありますので。  
そして、何かご利用の際には、ぜひわんからっとしの会員企業様をご指名下さいませ。どうぞよろしくお願い申し上げます。

わんからっとしはこれからも、右肩上がりに成長していきますので、今後ともご支援、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

わんからっとし編集長 小泉 知加子





## 15周年に寄せて

東北学院大学名誉教授、油川昭夫さんによる茨城県民謡「磯節」で、パーティーは晴れやかにスタート。公務でお忙しい中、村井嘉浩宮城県知事も駆けつけて下さいました。「大震災がありました宮城県を元気にしていく主役は皆様です。こうした異業種交流のネットワークが宮城復興の原動力になるのではないのでしょうか。これからも、20周年、25周年と大きく発展されるよう期待しています」。

続いてご来賓を代表し、参議院議員の岡崎トミ子さんから「震災を機に、支え、支えられる社会を実感された方も多かったと思います。私も被災者に寄り添う意識で行動してきましたが、これは起業を志す人に寄



上段右より、村井嘉浩宮城県知事、仙台北法人会女性部会副会長 嶋本トモマン、山口ハツト、伊藤由紀子、宮城県民謡「磯節」を演奏する青山恵さん、小泉知子、佐藤美由紀、小泉知子、佐藤美由紀、小泉知子、佐藤美由紀、小泉知子、佐藤美由紀

り添うわんからつとしの精神に通じるものがあるかと思えます。これから震災の復旧・復興へ向け、ともに頑張っていきましょう」(仙台北法人会女性部会会長の荷方桂子さんから「15年で種を蒔いて育て、たくさん女性の起業家を応援してきた活動は大きな意義があると思います。小泉さんには当女性部会の幹事としても協力していただいております。これからますますの発展をお祈りいたします」、また(株)ホットマン・イエローハット 代表取締役社長の伊藤信幸さんからは「明るく前向きでプラス思考の会員が多く、小泉さんも会員企業を発展させようという気持ちでやっていらつしやることに感謝いたします。10年偉大なり、20年恐るべし、30年歴史になる、という言葉がありますが、ぜひ20年、30年に向かってますます発展されることを期待します」とご祝辞を頂きました。

乾杯の音頭は、西岡美容室の西岡良子さん。「今、世界のあちこちで天変地異が起こっており、今日こうして皆様揃って地上に立っていることが最高の幸せだと思えます。15周年おめでとう、乾杯！」と、高らかに乾杯を発声しました。

## 広がるネットワーク

参加者の皆さんから一言スピーチを頂きました。「いつも誌面から元気を頂いています。活力のある方々がこのようにたくさん集ってこられることに会の15年の歴史を感じます」(宮城県議会議員 小野隆さん)「震災からの復旧復興に向け、私も皆



アトラクションには、街グレースーパー・インターナショナル講師の青山恵さんによるハープ演奏が行われました。

さんとともに頑張っています」(宮城県議会議員 石橋信勝さん)

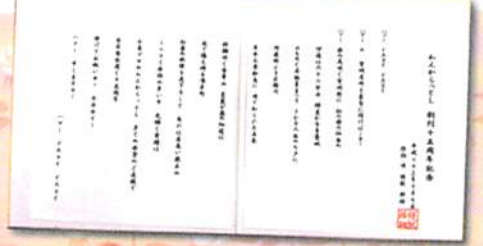
「わんからつとしが今も変わらず輝いているのは皆さんのおかげ。これからも皆さんとともに輝く宮城県にしていきたいです」(宮城県議会議員 遊佐美由紀さん)

「わんからつとしのパーティーには毎年参加しています。私も市議会の辛口おばさんとして頑張っています」(仙台市議会議員 佐藤わか子さん)

「小泉さんとは年代も近く、働くお母ちゃんの一人としてともに語り合ってきた仲間です。今後とも諸先輩とともに復興のために一つひとつ頑張ります」(仙台市議会議員 ひぐちのりこさん)

ご協賛企業、所属団体の皆様から「PHPは松下幸之助さんが63年前にPHP研究所を創設して以来刊行している冊子で、友の会は今年で36年になります。現在被災地に小冊子を贈る活動をしていますのでご協力をお願いします」(PHP友の会東北地区本部 児玉淑亮さん)

「当部会では、被災地気仙沼のおばあちゃんたちの自立を支援するため、浜のばあちゃんの布ぞうり」を販売 次面へつづく



石巻魚市場株須能邦雄社長の記念の相模撰句

## お便りコーナー

「わんからつとし」の創刊15周年、誠にありがとうございます。震災後のきびしい時期に不死鳥のように立ち上がり、ますます充実した「わんからつとし」を発行されていることに、心から敬意を表する次第です。被災地を回っていると、職を失った多くの女性が団結し、自らの仕事をつくることに、被災し孤立しがちな人々の安らぎの場、集いの場を生み出すべく必死に努力している姿に遭遇します。新しい女性ネットワークが被災地に希望を与えようとしています。15周年のメモリアルイヤールを機に、そうした女性のネットワークを応援し、震災からの復興を進めること、「わんからつとし」の大切な使命と思っております。そうした明るい未来に向かってがんばってください。東北大学大学院 経済学研究科長 大滝 精一様

「わんからつとし」創刊15周年を心よりお祝い申し上げます。貴社のこれまでのご功績に敬意を表しますとともに、今後のさらなるご繁栄をご祈念申し上げます。 仙台商工会議所女性会 会長 平賀 ノブ様

15周年パーティーが河北新報に掲載されました 平成23年10月21日・河北新報朝刊

◆創刊15周年祝う 県内の女性 雑誌「わんからつとし」の創刊15周年記念パーティーが、仙台市青葉区のホテルであり、企業関係者ら約150人が出席した。 小泉知子編集長は「東日本大震災があつても、努力が報われる世の中になりたい」とあいさつ。来賓の村井嘉浩知事、同発行、企業を個人が登録の会員制で、2万部

前目の年を迎え、会員に感謝の意を述べると、小泉編集長

15周年